

## 福祉の おしごと 通信

### 障害のある方が自信をもって 働けるように、寄り添い続ける



社会福祉法人 マインドはちおうじ  
オープンスペース本郷町  
精神保健福祉士  
社会福祉士  
塩見 両さん

就労継続支援B型事業所で  
支援員として働く塩見両さんに、  
仕事に就いたきっかけや魅力についてお話を伺いました。

#### 利用者の「働きたい」気持ちをサポート

高校生の時に自宅で祖母の介護をしていたことから福祉に興味を持ち、福祉系の大学へ進学しました。卒業後はアルバイト生活などを経て現在の職場に入職し、今年で12年目になります。今は、就労継続支援B型事業所の支援員として、心に障害をもつ方の就労のサポートをしています。ダイレクトメールの封入や投函など室内外の軽作業を利用者さんと一緒に行いながら、一人ひとりの状態に合わせた支援をするのが主な仕事です。また、地域のハローワークや障害者就業・生活支援センターと協力して事業所以外での求職活動の支援や、地域の医療機関と連携を取りながら健康管理を実施するなど、業務内容は多岐にわたります。

#### 迷いが払拭できた、大先輩の金言

利用者さんの中には障害があることだけで自己肯定感が低くなってしまっている方もいます。利用者さんには自信や「働くことは楽しい」という気持ちを持ってほしいので、「すごい!」「さすがですね!」というポジティブな言葉を使いながら、明るい職場環境をつくるように心がけています。楽しいことが好きな自分の性格もありますが、そう思うようになったのは入職当時、専門性に

とられるあまり、プレッシャーで押しつぶされそうになったことがあったからです。その時に現理事長がかけてくれた「利用者さんと話していて、笑顔になったり気持ちが温かくなったりすること自体が支援。気張らなくていい」という言葉をきっかけに、ふっと力が抜け、ありのままの自分で向き合ってみようと思えました。

#### 前向きな利用者の姿がこの上ない喜び

利用者さんが働く意欲を持って最終的に就職できたり、自分なりの幸せを見つけたりする姿を目の当たりにできることが何より嬉しいですし、仕事への活力につながっています。また、福祉の大学で学んだことだけではなく、これまでの人生で培ってきたことが受け入れられる職場にもやりがいを感じています。地域や時代のニーズが刻一刻と変化していく中で、しっかりとアンテナを立てて、法人としてどういう支援がふさわしいのかを考えながら、利用者さんに向き合っていきたいと思えます。利用者さんの工賃や待遇などをさらに上げていけるようにお手伝いできたら嬉しいです。「個」を認め、利用者さんたちがきちんと評価され活躍できる社会になったらいいなと思うと同時に、そのために利用者さんの魅力を伝え続けていくことも支援員の役割だと感じています。

love



高校時代までソフトボール一筋で、全国大会まで行ったことも。今は社会人の草野球チームに所属し、仲間と汗を流す瞬間が一番リフレッシュできます。体を動かすことも大好きで、「HIIT※」というトレーニングにもハマっています。

※高負荷の運動とクールダウンを繰り返すトレーニング法